

安麿集 五十九之五十九

内閣文庫	
番號	和 24752
冊數	21 (20)
函號	154 410

内閣文庫		
五十四函	二五	和
二	一	書
架	冊	號類



安驥集卷第五十八 援書 目錄

一 諸病寒熱并業又療治其為恙之事

一 諸病之復之乃病又溫乃疾及病之事

一 大延合業始之事

一 多自者しりて甲し

一 弱子彈子しりて甲子之陰陽之事

付憶了く療治之事

一 諸病之病性と不人當時連療治之事

病藥ツツツテから大切又病性不人病事ハ在人

淺草文庫

らすこと云々病の内かとかあつてもその内
茶と心内とかあつても再考と云々之は
冷病の内とかあつても茶と禁せしむ

之内を乃希病之事

一 結子治し胃丸勝出妙なり事

一 初虫寸白或は流し移り赤い血乃より此の
か方虫の血糞に現ると是の血は事あり
外早入能治す事

一 内既久炎吹或は上炎或は心熱之

一 諸ノ筋病一 独内既一 而風病一 別寒別
冷之之は糞状の大延云宵糞と名付

あつても乃希病之事

一 上炎之下冷一 位勝冷志不食一 浮結子
脾胃乃虚一 多痰子一 大延合葉ノ初糞
病に妙なりて若葉寒冷如葉とあつても
又丸病性勝神加つても是のヤリも合葉
の糞と云々治法病より若葉と云々糞病
と寒葉温病と冷葉と云々之病糞葉

冷病と温病と之は兼と云ふ大寒と兼と冷兼
熱兼と温兼と兼と云ふ熱兼と冷兼と
兼と兼兼の兼けと名付之も兼の
と指さく包れり也

一 寒者よりりて四季此甲しと云ふ大寒
病者出るとい冷病と定大寒と病者出ると
最寒と定定冷病秋三月出ると云病
者冬三月大寒と病出ると云勝清と云
一 春三月温病出ると云熱病と兼兼と上其

有熱病出ると云温と定大寒と熱病
者と温病と兼一兼兼とせと冬三月
温病出るとい病と兼と定是根元
ありと云を兼れり又云と云す
申あり

約論よりりて四季の陰陽付懐
るの療兼

一 約り春三月の温病と定定治之と云
温病と云一病と治之病病服

秋之月骨と補井と先之を治病と治
一疎之友之月婦と之を治病と治也
冬之月骨と補之治業と治也之
骨湯と脱懐る時之婦を治也之

目録

才一懐る脈之次第付疎る物と初事
才二逆子之むと之を治也事
才三懐るの才と之を打何す事
才四毒食と之を治也事

才五子然る之を治也事
才六急かの不下と之を治也事
才七老として開乃出て入井
才八懐る女之病内之を治也事
才九やせると之を治也事
才十子然る之を治也事
才十一懐る病病之事
才十二懐る内物之事
才十三懐る之を治也事

才布子然るを其後開腫大小便不通也
才又子とて其後大腸胃腸あり痛
一糖菜飲味好也

才十六子とて其後うきらきりて黄汁
二命うきらきり

才十七懐了内胎流るく吹糖菜と味好
才十八子とて其後内胎吹切也とて治也

懐馬の脈事

一懐了れ脈浮大強急也沈微細弱又云

沈微細弱の脈ありて其脈ありて其脈ありて
右の脈ありて其脈ありて又云懐了是大と軟
動し脈浮而て大也とて又云懐了脈
沈細又微方か吉又云懐了は息細
ありて其脈の血脈ありて其脈ありて
是大也とて其脈ありて其脈ありて
脈ありて其脈ありて其脈ありて
又云子然るを其のち微沈細り浮大
大息ありて其脈ありて其脈ありて

汁少く入る
一足りとはさくまの維の権病をとり出す
入るにあせ人葉状なる加し若か葉の合葉の
ち一足り

みじんくく開の出て不入葉を
一なりとる一核梗下一寸若ある一光籠子
一肉花蓉なる右細葉を落し去る同塩り
加し一筒と片葉と一錢入一交の筒を筒
は二交の筒と可細口筒と交しを交し
さあさるるまると煮てあつちを筒に入
れとむとる一わら物といはるふと交
して洗て明礬とつ付

左方の不下杖下を此葉を
一葉甜する一乳香なる一葉極粉なり一子下
一葉れものなき黒糖を十錢
右細葉を善治と煮して汁を一筒一錢
入る筒へ

是より開出て不入の葉を

一白朮下一天門冬下一熟地黃下一山梔子下
 一石見川九錢一訶梨勒下一枳殼下一肉桂下
 一杏仁下一人參下 在細末下塩湯下下
 之後百合桂川桂勝と結下の灸此病下
 下勝下大虚下

憶下子下皮肉下子死下子下事
 一薑下一芋下一葛下一川骨下
 一赤下一麻下

右細末下酒下之下

疲下子下動勞下子下

一胡下一絲下一腦下一骨下
 一子下一病下一血下一上下
 一汗下一出下一物下一汗下
 一汗下一物下一汗下

一石膏下一炙下一蓮肉下一活下

一桃白皮下一七紀多一格梗二多

右合葉メ車前子とあまメそれとあてさゆ
てそ汁を一筒一錢入て交ぶ右筒只二交れ
夕て右筒はく上を夾一目白をれ右脈
さうがうり血出て百合さうさうひと灸
ひと灸一あうらう井ノ也一

一ちうこ馬痢病ノ事一さし右痢病ノ事
門と灸ひわい外治スをさうさういと灸門
灸と函加換のるこ一をらせ紀一干姜

一草撥一巴豆一か豆の他一胡椒

右細葉メさくひと灸もせ灸と灸方ゆ寸
切を紙はさくひと打付えを門のと灸り
の毛と灸さうさうのけて付人一それ灌頂
と痢病葉と灸あまい別治

懐る内換の葉と灸

一うひ一葉一葉一格梗一端砂一本香右下
一尺深三下右合葉メ寅向のあま梳一ツ
枝葉と灸さうさう交て枝向も灸右痢病

より下勝ひく虚をひりぬ酒を切て
こもく不眠法の内換し用く

懐る雪門の取或いひさる或ハ尻

股をわて大小便利さる初り如葉の

一沈着る一本者下乳者下一太載^下下一番

附子^下一石見川^{十六錢}右細末メ落酒を之局

将多^ハ堅^ク加

一子とくして後開をれ大小便不通葉事

一悪冬一ひしり葉^二敷^三子^をあ^メ

上さく久^ハ中^ハ強^ク湯^酒と知て後^ハ出^ル事

後^ハ葉^一あ^の一^カし^後招^合取^之事

て付人

内葉事

一本通る一千麻^一百扁豆^一大味子^一下

右細末メ車あ子と葉メ^七汁^三切^入

又云く汁出いて^南星^垣透^之と扱て少

加^付人

子とくして大腸胃此勝とあく

一良姜一枳殼一青皮一檉子一香白芷
一竊^{キウ}芎^{キウ}

右細末入酒之可調

安強集卷第十九 按書 目錄

才一又結之次才一陽結一癆結一瀉結

一風結一虫結

才二又亂病次才一亂結一亂動一癩病

一陽亂一心亂

才三又淋病次才一黃淋一石淋一紅淋

一勞淋一血淋

才四又筋病次才一風筋一亂筋一病筋

一勞筋一中氣筋

才又四季五定病一春定病之辰夏之辰
里用三辰秋之辰冬之辰

大結之事

才一湯結と云い膀胱熱一と云い合はるる
汁をちくして大腸胃を毒無滞り病
才二痰結と云い腹中やせ食而不食消
胃の毒をちくして下腸の虚熱
才三去結と云い或は胃腸腸肢上中下
虫結か屎の結あり病也其も熱也

才四濕結と云い屎の由りて結る水の
しと云い結乱と云い其も中虚
才五風結と云い肺を乾して大腸熱又息
下又下腸のあり息は大腸をさへて
且又下腸の風をさへ腹をわ熱一息
そへて少頻病之大事也熱一と云い
外結と云い

陽結之事

一付干る一活毒根る下一大黄一細末

破るをも又薑汁を之も酒の水少くも
時よりて飲へ

痲結し薬事

一活萎根一平通散各十錢一本香下
下右細末入酒之の厨了此より
煎る之の厨

虫結し薬事

一火黄一黄芩各一椀下一絲膜下之
もろく末と薑汁一椀入可厨

浮腫馬し薬事

一縮砂一芍薬一本香各一椀一葉胡一人參下
細末入酒之の厨

風結し薬事

一本香一蓮肉一牽牛子各一椀細末入酒の水
を二椀入可厨

血乱病し薬事

一乱血云々一飯打日茶より日茶物より此の
六ヶ糞一息あくと汗く事も云々

才三血淋と云い血ノ尿と云う也

才中紅淋と云い尿ノ赤血と云い赤く又老より

赤く老もいふこなり少くも中

才五勞淋と云い久病ありとあり下脲痛

傍狹攣一尿と云い少く也

黃淋ノ薬ノ事

一夕血尿と云い一干薺と云い一桔梗と云い一干姜と云い

細葉ノ酒と云い一

石淋ノ薬ノ事

一餅ノ干と云い粉ノ一干姜と云い一白朮と云い一白極と云い

一葉胡下右細葉ノ昆布と云い湯と云い洗と云い汁

と云い一

血淋ノ薬ノ事

一策極粉一茯苓一地黄と云い一桔梗一人參

一車前子と云い一石見川と云い一錢 右合葉と云い

右方湯と云い一箇と云い湯と云い攪一息蒸と云い

八洞の取と云い一箇

紅淋ノ薬ノ事

一木香一斤一人参一斤下一當歸一斤一桔梗一斤一干姜一斤
一平通散一斤右細末一斤酒一斤之一斤

勞淋之藥

一干姜一斤一人参一斤一茯苓一斤下一百合一斤一干姜一斤
細末一斤生薑一斤之一斤酒一斤之一斤之一斤之一斤
一骨一斤一骨一斤一骨一斤一骨一斤一骨一斤

五筋病之事

一風筋一斤一肝風一斤一痛身一斤一筋一斤一筋一斤
一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤

一筋之太々々息脈一斤

一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤
一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤

一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤
一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤

一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤
一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤一筋一斤

勞筋ノ薬ノ事

一桂心一人参一陈皮一枳殼一芍药各一石梨
一勤一栝棟各下一干姜下 右细末入酒少
煎之芍药以上之药七方寸匕と注し之を以て
手一荊芥一巴戟ハクシと加へ一又云わろまを以て
牛膝活黄根と加へ一了らと少人汗と加へ
木香方朔と加へ上

痛筋ノ药ノ事

一玉山女一栝棟各一石下一散子一天門冬一石尺
一芍药一干姜下 细末入瓶之と注し之を以て
一之一筒一錢入一交之筒外益夕之交二七
一筒之と注し之と注

中筋ノ药ノ事

一厚朴一茴香一木香各一石一陈皮一干姜
一人参各下一蓬肉下一川骨下 右细末入
一之筒一錢入一交之筒以上之交外夕
一之筒

此等ノ病治方ノ事定病之候ハ

一引内死一動勞ノ多ク速一風病之也

引内死ノ薬事

一白朮一桔梗一皂莢ノ煎合子一良姜一干
姜合子一茯苓一合葉ノ指ハ酒之ニ同
病満ありハ皂莢お大メ此ノ如クハ同子糖
死よりク食前ニ腫ルニ恐冬ニ煮メ
飲ム

動勞ノ多ク速ノ事

一胡ノ四一良姜一射干一平田散

一合葉ノ煎合子一合子一平田散
一合子一合子一合子一合子一合子
一合子一合子一合子一合子一合子
一合子一合子一合子一合子一合子

風病ノ薬事

一白朮一木耆一耆附子各一平田散
合葉ノ酒少ク一合一合一合一合一合
一合一合一合一合一合一合一合一合
一合一合一合一合一合一合一合一合
一合一合一合一合一合一合一合一合

一大小霍乱一揺病一物瘰疔

大小霍乱薬事

一青根一活葉粉各二匁一重水石一石高骨各下
一石見川十錢 右合葉ノ梨木ノ枝ノ葉
てを汁とす一匁と二錢入一匁七角て釣病
諸老多し酒の水とす一匁

揺病薬事

一河骨一芍薬各二匁一桔梗一宿砂各一匁一石
見川十錢合葉ノ白灰子と老葉ノ一匁一錢
入一匁右有良ニ交和又一匁一病諸老多し

荷考と老葉烟抄日方

筋痠薬事

一沃浮一木香一桔梗一蓮肉一續断子各二匁
一青皮一肉桂各一匁一平通散十錢合葉ノ
一方師少之骨上二錢入一匁右有良日之度
釣病方可也

虫用定病之症

一法筋病一乱病一服病之

筋病薬事

一芍薬一以浮一陣波一青皮一蓬子
一香子一干姜一合葉一たうととと葵一
日小一夏一每七方一何人一何一錢中入

乱病薬事

一三寸人血一桑椹粉一乳香一香子一石人
川一廿一錢一水一之何人一何一子一石高蒲
一也一葵一何一錢入一夏一何一何一何一
何人一何一何一何一何一何一何一何一

眼病薬事

一川大黃一葵一葵一葵一芍薬一楮梗一香
一也一合葉一何一何一何一何一何一何一
何一何一何一何一何一何一何一何一何一
何一何一何一何一何一何一何一何一何一
何一何一何一何一何一何一何一何一何一
何一何一何一何一何一何一何一何一何一

喉定病之症

一肉腫一中風一何一何一

肉腫薬事

一皂莢一何一何一何一何一何一何一

姜香下 右合菜ノ酒ヲ一盃 瓶入ニ交
合日尔ノ交物ノ七方可調

中風ノ薬ノ事

一麦ノ香一荊芥カイカイ一香波一枳殼各一盃
一白米香下一石見河粉各一合 菜ノ酒少ク
一盃ノ瓶入ニ交ニ合日尔ノ交ニ合ニ合

下酒ノ薬ノ事

一昆布コンブ一白角豆一灯臺草トウダイクサ各一盃
一山柰 下合菜ノ山ノ毛ヤマノモと合ニ合ニ合

酒ノ香一盃ノ一盃入ニ交ニ合日尔ノ交ニ合
一每七方ノ瓶一

冬ノ病ノ症

一猪子一中宜一吐風氣

猪馬ノ薬ノ事

一火黄一黄芩一黄連 各下一村干 各一合
合菜ノ香ノ汁ノ一盃 瓶入ニ交ニ合
九合も十二合もこの汁ノ一盃ノ上ニ合ニ合

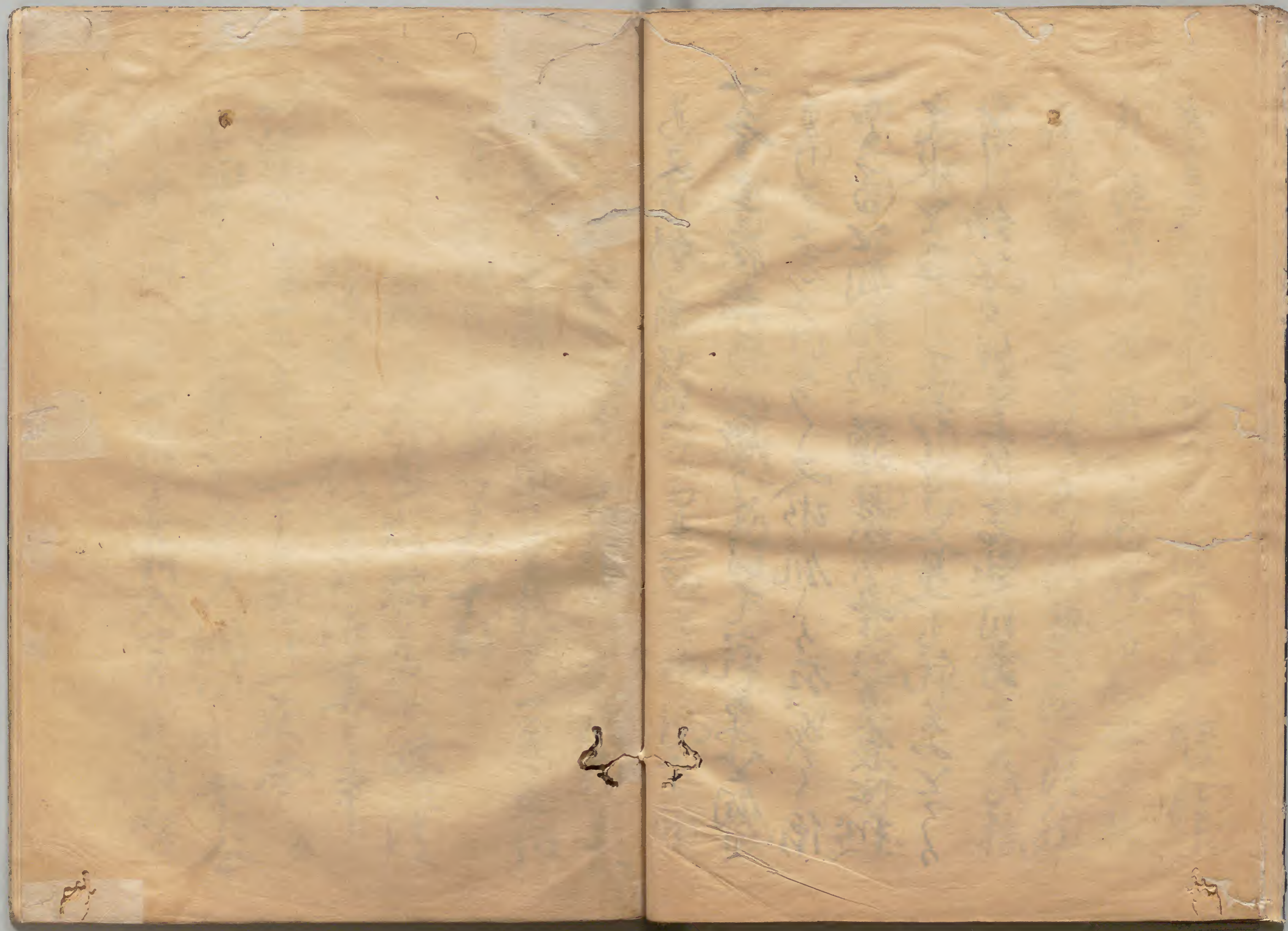
中風ノ薬ノ事

如ス之れハ暑日熱^ニシテ版中温^ニ又暖^ニ雖^ニ
外ノ温日内冷^ニ戦^ニテ筋^ニ強^ニテ筋^ニ冷^ニ又此
病^ニ乃^ニ申^ニ是^ニ寒^ニ多^ニ冷^ニあり以^ニ勢^ニ病^ニ之^ニ治^ニ然
治^ニら^ニく^ニさ^ニる^ニせ^ニい^ニ本^ニ虫^ニ心^ニ傳^ニく^ニ合^ニ葉^ニ乃^ニ搖
病^ニ筋^ニ癱^ニ之^ニ趣^ニ同^ニあり

一^ニ土^ニ用^ニ定^ニ病^ニ筋^ニ病^ニ乱^ニ病^ニ眼^ニ病^ニ名^ニ木^ニ封^ニ土
も^ニあ^ニり^ニて^ニ
一^ニ秋^ニ之^ニ月^ニノ^ニ定^ニ病^ニ内^ニ雜^ニハ^ニ振^ニ勢^ニで^ニる^ニされ^ニる^ニ家
る^ニ秋^ニ風^ニ肺^ニと^ニあ^ニり^ニる^ニ是^ニ如^ニく^ニ中^ニ風^ニ平^ニ調

も^ニ又^ニ如^ニ斯^ニ有^ニは^ニ得

一^ニ冬^ニ定^ニ病^ニ結^ニる^ニハ^ニ厥^ニる^ニこ^ニひ^ニて^ニ乾^ニ多^ニと^ニ同^ニく
より^ニて^ニ志^ニう^ニけ^ニあ^ニく^ニ又^ニ水^ニ飢^ニる^ニ存^ニ如^ニく^ニ依
る^ニる^ニと^ニ同^ニ指^ニ筋^ニ強^ニ禁^ニ云^ニ冬^ニハ^ニ方^ニ食^ニと^ニ相^ニ
て^ニ水^ニと^ニ色^ニ一^ニて^ニ持^ニら^ニる^ニ是^ニも^ニ乾^ニ多^ニと^ニ同^ニく
と^ニ一^ニ結^ニと^ニの^ニ脱^ニ入^ニる^ニ後^ニ意^ニ趣^ニ同^ニあり



冬上一 一 右細葉ノ昔此種と大
うまそくを計る一箇上中紙入 一 夏一 白
也 右同は上 一 夏一 白

癖有久 皮 粘 多 少 之 疎 之 皮
後 あり け 之 一 活 葉 之 事

一 綿 砂 之 一 丁 子 下 一 干 姜 下 一 夜 苓 子
右 細 葉 ノ 根 ノ 葉 之 葉 ノ 洞 ノ 水 考 之 合
て 之 計 之 一 箇 中 紙 入 一 夏 一 白 之 方
一 人 一

とてしはきく久変炊は是ノ
自由之計は此皮は有りぬる
と味ハ事ある茶ハ

一板此縁多一大黄 下 一枳椇 多 一夕白
多右細束ノ忍冬ちるやの根と事ハ
汁多ク一筒一鉄入て夏ハ向之
と有りてハ
付人ノ一差業ハ
分多ク久変ちる

皮は有り糖多と味ハ
一人多多一丁子 下 一陳皮 亦 一葉
右束ノ一筒ハ鉄入て夏ハ向之
水ハ
人

分多ク久変ちる形冷胸熱
糖多と味ハ

一者白芷多一芍薬多一
皮ハ一蒲黄 下 一
牛膝 四 一 潤の水ハ

下洞加粉の細くしる洞

法は牙肉糖をよと味は洞菓下

一黄耆 下一陳皮 一青皮 下一肉蓯蓉

下一干麻 下一毒核味 下一芍薬 下一

右細末を洞の水をいれ酒をいれも煮る勢

よりて洞へ一又云は薬とあは薬入る

之膏洞へ一

消渴久変ちやにて糖を味

と云は薬事

一黄蘗 下一蔓肉 下一芍薬 下一

根 下一縮砂 下一葱苡仁

右細末をちやに根とあはし膏一錢入

下は洞の洞

糖を味久変ちやにて破るは

ちやに破る糖を味は洞

薬事

一白朮の錢一茯苓 下一風薑 下一

り右細末をちやとあはし膏一

筒一錢入一夏が筒の筒

徳の筒の筒物久夏が糖菓と味

とら治菓と事

一志をー下一白物七錢一沈者下

右細葉の酒の水を一筒一錢入一夏又

筒一錢入一

徳の血らるる糖菓と味と可

治菓の事

一筒一錢入一夏一子下一半夏一大葉下

右細葉の地葉と加うた白物と糖菓と

を汁を一筒一錢入一夏が筒に二夏

一右筒一

大癖之糖菓と味と治菓下

一大葉下一中いかに一夏一夏下

一芍薬下右細葉一筒一錢入一夏が筒

女れき一少筒一

一牙関徳徳ニヤきくひの房一牙関養異結ニヤ事
 一牙関脈結一牙関糖姜跡一牙関腎虛
 一牙関腫腫一牙関筋の針目入ニヤ菜
 一牙関生死脈事一牙関毒生端ニヤ事

牙関端ニヤ次事

一牙関ハ氣の氣に委して我ハ房ハ邪ニヤ令
 と核りては肉筋骨皆皆徳後入ニヤ令
 皮肉は連筋の自由なくおもむき筋事
 是ハ房と云いおもむき筋連筋皆皆

或ハ骨にさりり身皮は薄りさる人ハ計
 風上物ニヤ方有是と云い苦痛ニヤ在是
 この血ニヤこれ故ハ邪と云い邪ハ毒
 暑ヤニヤ毒邪ハ方と云い方ニヤ毒
 能く病のニヤ毒もと云い人ニヤてかニヤと云
 分療治ニヤ人ニヤ物ニヤ

一牙関其ハ脈ハ或ハ筋ニヤさる方物ニヤゆり
 一ニヤ時ニヤ何ニヤ何ニヤ事ニヤ

一干麻一白朮一毒脱味一桂ハ赤ニヤ細葉ニヤ一

筒一錢入在病之筒中錢入了後が筒
て筒牙関病次第

一さうかんの片をひとさし痛牙冷牙の法は
まり糖をよと誅さくひ物作りは是の自
由あくはじか候馬い女脈あつりさく
療治い庭あちとかり火とさくおまの
能とたずりさり時木と立よこにゆひて
そと、板の架柱と候り庭ここ架柱
変と上壇たうと変りまに馬と老

血は穴こ引けおさく水とさく色一
皮息とさくとむと色一とを引せ
くむて耳の根より汗あつ時をさのけ
ておさく一冬いむらとさくさけ
風のひあ垢と大毛とをさへ一か垢と
も療治さくは傳と云いさ候りくむ
一おまの大病と候り病と候り内上死候
は数とさくとさ候りやせ候りく内わ
たつとさ

牙関薬之事

一人参 下一切 荆勸 下一白米 下一洗皮 下
一芍药 一芍药 一小忌糖 右细末 入毒脱味 下
招酒 之 之 芍药 枝茶 之 芍药 入 芍药 之
尚 尚 尚

牙関ノ薬之事

一川芎 一芍药 一乳香 一麝香 右下
右细末 入芍药 之 芍药 入 芍药 之
日 芍药 之 芍药 入 芍药 之

大陽ノ牙関之事

一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之
一芍药 一芍药 一芍药 之 芍药 之 芍药 之 芍药 之

一車中一巴豆一さいのうらそとくひし
と合て口より付て垂へし一云雨し
よりて秘とちし一はそとささこわく色一
又口とさ記そわく事もある一まは付
以素ふ一買て差一受せき一干姜が麻
角の忌物あふ付へし一を中そゆて
洗て蒸て付

一利痛し牙固し事苦痛治すひと云い
とさし治さそわげとて久変く治す
血熱し効治る色ひらき速とくひ身
れ皮治り牙固とぬし方さう上矣
一只是の少一許大切療治ひ定是と
見系病ある肢と出うらる色一とさ
まりて入てい出と記とわく色一とさ
はら付蒸事

一女のうまをち忌物麻角忌物あふ
細糸の相粘めゆとさ一合ては蒸と
練て赤半粒とさひのあひさう

押みよとくしとあそむる一とよとく
かすくとくをたせぬとけしてよむる一
是の旨陰影をよむとせ一骨髄丸
しり血とけ水を入れて冷まて一肉筆
一縮砂を一丁子下一人参下干蛤
一凍皮下 右細葉の松の縁とあつた酒か
加てお角を流すり久変はた大勢一
分し付て之類を急げ河ハ肉筆酒とく
飼魚一とく

一分牙関ト云いするを堅固又係は遂と云い
筋流りたは流すりまうらむ花かり
あそむとくく事ありあてくはくく
して整り死より一か快のるをい麻痺と云
るの甲しと結と見分て一活か振るる病
付た連い整り死いあそむとけ大方死に
治然整り死に整りて入るる麻痺と云
一は是は腕関節の骨折と云
一毒状味を一千姜一信起を穢は傳一人

冬下一縮砂下一志やう下一たん下

右細葉メ酒之筒中錢入つて夏メ骨之節

一たんやう此牙関事短陽と云云是も傷し

病付也頭そり筋流り歯と云云此病は是あ

らくメ目し白物うりうう此筋事し

大く七方と却せると日脈強好ら死と見

るそく多る色し皮肉色紅い治る事

あり瘰癧と骨脈立るとんう九乃命

乃と云うり血成川お川入志うかた

冷と人し口傳る事一着下せ

一大黄が一人冬下一つう下馬一又八葉あ少

一手麻下白極下細葉メ芍薬夕白流る

そとと葉メ酒の水あふ合そ一筒一錢入或

半錢入お同の筒筋流りくはゆりてん

い筋との人葉メを後冷と人し口傳る

一破脱れは色ひの事そとて俄ちとひ

んそ通ううひて歯と云ひ目くそりた

ま志ひとくあくもこゆり事一筋とそは

腎精衰や建するは加齢の事と脈疾
と人々を薬と何人か陰脈疾の事
陽脈疾の者も脈疾なり死するは
此内死す

一、心も此牙関と云い御まを舌腫あま
とありしは是れ自他なく歯と云い此
舌へ脾の脈、心へ肝の上へ肝入り脾乱
るは、陰脈疾の骨脈九乃其陰毫
脈也、心も人より血を心川入鏡毫

か、心臓水入冷る也、薬を事

一、芍薬一人参一、よき散者、一、下
一、ろくろく、下、右細末、根、縁と、其、其、其、計
ろ、その、骨、中、後、入、二、後、お、骨、の、関、定、字、
牙関の次、牙、是、也

牙関あつたの事

一、徳、牙関を治するは、治するは、冬、の、温、く、女、而、立
命、強、と、む、さ、る、也、一、培、其、新、牙、関、禁
物、を、是、れ、冬、の、い、が、ゆ、か、ら、い、は、す、い、お、は、あ、ま、

之膏或いぬ膏はしし之をわつて飼

防風正気丸散秋之月法牙固之飼
葉之氣とさの之効とやうけ合ひり
しとち風くとのそく事非一

一白米りて一干姜米一さ一さ一さ下
馬焼一香附子さ一丁子下一くセささ
右細末メ酒少そこの飼又云めはち悉
冬とあつメさけされこの飼も昔一膏一
錢入さぬ膏はしし之をわつて飼

茯苓散冬之月法牙固之飼
葉之酒月法志く一法のとまり効
とやうけ散かまりのひまけの法

一白茯苓さ一く者さ一さ一さ一さ
ささ一さ一さ一さ一さ右細末メ酒
一膏中錢入さぬ膏はしし之をわつて飼

丁香白米散牙固と治

一丁子さ一白米さ一干姜下一毒散味さ
一さ一さ一さ一さ右細末メ酒さぬ膏はしし之をわつて飼

少くも毒殺味と落病とを扱てもるなり
くう局

志珠丹法の牙固と治す

一志珠二葉 一白くろふ二葉 一赤砂下 一赤くろ下
一白くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一人参二葉 一白くろ下 一白くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下

在十八味細末と云ふ丸と云ふ并の耳と云ふ

細くう局好死と云ふはけをさすとの効と
やりけ法は是に云ふ并か

滑潤丹法の牙固と治す腎法

中り下狩と云ふ丸と云ふ

一白くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下
一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下 一赤くろ下

右細末と云ふ丸と云ふ并再七年の丸と云ふ計三葉

之和教法ノ牙固療治ノ方と云へ

今人參者少と稱入移事吉

一 牙關法脱き第方

一 牙關番異結也ハ番異と思事ハ

以内某加減メテ人移入下方換入

一 牙關取結正事ハ

芍薬夕日法ハ

切人

一 牙關おろす事と疎といハ食と

位筋法ハ

ちうくせぬものハ

一 食ハ

一 疎皮

一 茯苓

一 根と

切人

一 牙關胃

一 補

百考ともなくくさして安んずると考大儀
入猪の上と並て猪とせむ人一葉とい
一干蛤る一葉下下一肉落茶客る一ろくせ下
一ちろや根る 右細葉もちろやの根とあま
ま汁をそて骨に積入て安んずるに安んずるも
安んずる人一
一牙肉も肉行ゆ正行事と別療法を
危うくは牙肉と治すは治すをせし
治すたるも一

一牙肉とのて針目への起死葉事
一鼻葉を一葉下一ても一女くも
の思精をさすも細葉も針目へ入
一牙肉生死脈の事大陽は牙肉也
の牙肉た人やれ治すは人脈も
も少かゆ一陰ノ牙肉息脈も
進むるは死又沈る息いれは死
重冷の牙肉は安んずる又云は
何れも牙肉息より起る脈滑るは

息子又縁沈ちるに事

牙関する事生端事

一、是にさむき、而と林、正と但、る、らりて
 方、らりて、以、食、の、米、の、穀、増、多、れ、お
 飼、へ、る、以、ふ、子、所、糖、を、加、糖、の、こ、を、い、う
 申、上、は、是、に、是、に、飼、へ、る、水、の、量、や、水、斗、を
 一、飼、但、ち、者、一、扱、と、飼、事、も、あ、る、一、



